

①事例の概要

この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です。

水道橋 久 さん

記入者：支援センターひまわり 相談支援専門員 六本木はやと

事例タイトル	父親と弟との暮らしが困難になり、グループホームと就労継続支援B型を利用しながら地域で生活することを希望している事例
相談経過の要約	<p>久さんは、A市で2人兄弟の長男として出生。初語や歩行が少し遅かったが、3歳児健診などでは特に保健師の指摘事項はなかった。小学校の1～2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きがなく、席を立てて教室を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあった。</p> <p>小学校3年生からは、自閉症・情緒支援の特別支援学級に移った。小学校6年生の秋に、他の生徒との学力の差、学習環境に馴染めないこと等から、担任からは、中学は特別支援学校への進学を勧められた。その際、児童相談所で療育の判定を受け、軽度の知的障害であった。</p> <p>中学はA市内にある特別支援学校に進学。中学校では、太鼓部に所属し楽しく過ごした。太鼓部の顧問は、久さんのできるところは積極的にほめて、苦手なところは根気よく教えてくれた。昆虫が大好きで、図鑑を見ている時は周りの声が聞こえないほど集中していた。また、同じクラスに昆虫好きの友達があった。父親が大工だったこともあり、久さんも木工に興味をもって犬小屋を作ったことがあった。</p> <p>久さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。母親が統合失調症で自分のことで精一杯で家族の面倒をみられなくなり家を飛び出してしまった。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。その後、久さんは母親と年に1～2回は会っている。離婚後、父親は家のことを何とかこなしていたが、徐々に家の中が乱雑になり、久さんも学校を休みがちになった。</p> <p>久さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司がいて久さんも素直に対応した。上司がわかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、1年後に上司が変わり、その上司が他の従業員の対応に追われて、久さんにあまり気を配らなくなった。それから半年後に、久さんは「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などの不安を訴え、工場に通えなくなり、そのまま退職してしまった。それ以降「誰とも会いたくない」と話し、求職活動ができず自宅でひきこもり状態の生活になっていた。</p> <p>久さんが退職して半年後、父親が通勤途中に交通事故にあい、大けがをした。</p>

	<p>父親は右半身に麻痺が残り、仕事ができなくなった。最初の頃は貯蓄で何とか生活していたが、すぐに生活保護となった。それまで父親が家事などを行っていたため、さらに乱雑な状態となり、食事も偏りが見られた。</p> <p>父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があり、久さんも「お父さんと離れて、自分で生活できるようになりたい」と希望した。久さんは、相談支援センターひまわりで相談を始めて、見学等も行方中「相談しながらやっていきたい」「今は朝、起きられない」「掃除や洗濯、調理ができない」。でも、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。</p>
<p>年齢・性別 家族構成・家族状況・</p>	<p>年齢 22歳 性別 (男性) A市で生まれる。</p> <p>家族構成 父：もともとは大工。現在は無職。交通事故で右半身に麻痺が残る。何とか自分のことはこなせるが、子どもたちの世話をするのが難しい。久さんの施設入所を考えていたが、久さんの「自立したい」という気持ちを聞いて、久さんには福祉サービスを利用して自立してほしいと思っている。</p> <p>母：A市から少し離れたB市に居住。生活保護を受給して一人暮らし。統合失調症の治療中で、久さんとの同居は難しい。年に1～2回久さんと会っている。</p> <p>弟：5歳下。高校3年生。高校卒業後は就職する予定だが、兄の面倒までは見られないと話している。</p>
<p>手帳・区分</p>	<p>療育手帳B、知的障害、障害支援区分 3</p>
<p>生活歴及び病歴</p>	<p>【生活歴】</p> <p>A市で生まれ育つ。初語や歩行は少し遅かったが、特に保健師からの指摘事項はなかった。小学校3年生から情緒支援学級に通学、中高は特別支援学校に通学。好きなこと(木工や昆虫図鑑を見ること)は集中して取り組むことができるが、興味がないと席に座っていることができない。また中学・高校は太鼓部に所属し、地域の演奏会などに参加。友達は数人いたが、自分から積極的に作るタイプではなかった。どちらかというと受け身的な性格であり、話かけられるのを待つ方だった。困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする。</p> <p>仕事はしたいと思っていたが、またうまくいかないのではないかと、求職活動はできずにいた。</p> <p>【病歴】</p> <p>中学校進学時に、児童相談所で判定を受け療育手帳を取得。診断名は知的障害。仕事を辞めた後、自宅で引きこもった生活をしていた。生活保護の担当ケースワーカーの勧めもあり、精神科病院に受診。眠剤と安定剤を1日1回処方され</p>

	て飲み始めた。受診してからは、夜少し眠れるようになったと話す。
経済状況	障害基礎年金申請中 補足給付：家賃 10,000 円（申請中） 生活保護受給
相談に至る経緯	父親から久の生活の面倒が見られないので、施設に入所させたいと市役所に相談。
望んでいる暮らし	<p>久さんの希望は、「父親には世話になったので迷惑をかけたくない」「自分のことは自分でできるようになりたい」「困りごと相談したい」「将来は一人で暮らしたい」と思っているが、「今は朝、なかなか起きられない」「掃除や洗濯、調理ができない」ことに困っている。そのため、「3年後ぐらいにはまた働きたい」「今は働くことの自信はないので力をつけたい」「1人でコツコツと集中できる作業が好き」「働くときには優しい上司がいるところが良い」と話している。友達がうまくつくれないことを気にしていて「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫の話ができる友達ができたら最高」と言っている。</p> <p>自分で自立した生活というイメージがまだ持てないが、周りの人の協力が得られれば、十分地域で生活できると、生活保護の担当者は考えている。</p> <p>久さんは、「3年後には普通に仕事をして立派な男になりたい」と言っている。</p>
本人の状況と最近の様子	<p>久さんは、こちらから話かけるとボソボソと返答するが、話をするのは好きな様子。久さんからの質問はほとんどない。相手の話を「はい、はい」と返事をするため、分かっているように見えるが、なかなか理解はできない様子。</p> <p>久さんの見た目は年齢相応の好青年である。生活に困窮しているため、服装には少し汚れが目立っていた。</p>
その他	<p>父親は右半身に麻痺が残り、これ以上の回復は望めない状態。</p> <p>弟は、普通高校に通い、健康状態の問題は特にない。</p>